

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

| | |
|---------|-----------------|
| 事業所番号 | 3873200780 |
| 法人名 | 社会福祉法人 寿山会 |
| 事業所名 | グループホーム パラディ |
| 所在地 | 今治市波方町樋口甲120番地1 |
| 自己評価作成日 | 平成26年5月30日 |

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | |
|-------|---------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人JMACS |
| 所在地 | 愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501 |
| 訪問調査日 | 平成26年6月20日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

理念を大切に、利用者本位のサービスを提供できるよう取り組んでいます。
医療と連携をとり、安全で安心して生活できるようにしています。
地域の中で、地域密着型サービス事業所として地域の方々に親しみがあり、なじんだホームとなるよう努力しています。
ご利用者・地域・医療・職員の絆を大切にして、ご利用者の生活の質の向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

6月の「あじさい祭り」は、事業所の恒例行事となっており、運営推進会議時に地域の方達と一緒に作った地域のことを知る「多々良マップ」をもとに、案内状を持って高齢者宅や介護・障害者施設を訪問して18名ほどの参加があった。当日は、お茶会の他、三味線ボランティアの演奏も企画し、利用者の知り合い等も来られ、お話が弾む場面もみられたようだ。法人主催の「福祉フェア」は、毎年11月の介護の日に、法人内の事業所が持ち回りで開催しており、昨年度は、子ども達のダンスの披露もあり、握手してふれ合う時間も持たれた。自治会の用水路清掃には、男性職員が参加されている。又、よく畑の野菜を持ってきてくださる隣人を事業所の「そうめん流し」に招く等、日常的な交流にも努めておられる。
食事は、「地域のもの、旬のものを取り入れる」ことにこだわり、事業所で作っておられる。1つのユニットで全員分をまとめて作り、もう一つのユニットへ届けるようになっている。利用者は野菜を切ったり、後片付け等をしており、調査訪問時は、利用者が慣れた手つきで人参を千切りにされていた。糖尿病等の持病がある方には、状態に応じて、栄養士の資格を持つ職員がカロリー計算をする場合もある。利用者の誕生日にはお好きなちらし寿司を作ったり、握りずしをお店に注文する等されている。又、ウナギやかぼちゃを使った季節の料理や鯛めし等の郷土料理も、積極的に取り入れておられる。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 該当するものに印 | 項目 | 取り組みの成果 該当する項目に印 |
|----|---|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25) | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38) | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38) | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37) | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49) | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31) | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28) | | |

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム パラディ

(ユニット名) 花

記入者(管理者)
氏名 笠原 好美

評価完了日 平成26年 5月 30日

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|-----------------|------|--|---|-------------------------------|
| 理念に基づく運営 | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | <p>(自己評価)</p> <p>事業所としての理念は下より、母体組織の理念「寿山会は地域の皆様と共にあります。私たちはご利用者の皆様を第一に考え、自己研鑽に励み、誠意をもって、私たちのできる最良のサービスを提供しつづけます。」を意識し、各々が社会福祉法人の職員としてできる地域貢献とは何かを考えている。又、利用者第一のサービスを職員間で話し合い、介護計画を作成し実践している。</p> | |
| | | | <p>(外部評価)</p> <p>玄関や各ユニットには、「ひとり一人がその人らしく尊厳のある暮らし」という事業所理念を掲示し、パンフレットにも載せておられる。さらに、「できることを探しましょう」「したいことを探しましょう」等、4項目の行動指針をつくり、理念の実践に取り組まれている。又、「一職員、一社会貢献」という法人の事業計画の下、職員は、献血や古切手収集等に取り組まれている。</p> | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | <p>(自己評価)</p> <p>6月に開催する「あじさい祭り」に地域の方をお招きしお茶会を開いている。他、避難訓練に地域の方が参加してくれたり、田植え前の掃除に参加している。又、近所の方から頂いた大根やきゅうりで漬物を作り、近所の方にもって行く事もある。</p> | |
| | | | <p>(外部評価)</p> <p>6月の「あじさい祭り」は、事業所の恒例行事となっており、運営推進会議時に地域の方達と一緒に作った地域のことを知る「多々良マップ」をもとに、案内状を持って高齢者宅や介護・障害者施設を訪問して18名ほどの参加があった。当日は、お茶会の他、三味線ボランティアの演奏も企画し、利用者の知り合い等も来られ、お話が弾む場面もみられたようだ。法人主催の「福祉フェア」は、毎年11月の介護の日に、法人内の事業所が持ち回りで開催しており、昨年度は、子ども達のダンスの披露もあり、握手してふれ合う時間も持たれた。自治会の用水路清掃には、男性職員が参加されている。又、よく畑の野菜を持ってきてくださる隣人を事業所の「そうめん流し」に招く等、日常的な交流にも努めておられる。</p> | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | <p>(自己評価)</p> <p>地域の中学校の体験学習の受け入れを行っている。他、地域包括センターの依頼を受け、地域ケア会議に参加し、地域で高齢者を支える事の大切さを話し合った。</p> | |

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|---|---|--|
| 4 | 3 | <p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> | <p>(自己評価) 運営推進会議を事業所の報告会に終わらせない様に、参加メンバーから質問・意見を受けており、活発な意見交換会が行えている。</p> <p>(外部評価) 会議参加者の多くが農業に従事していることから、夕方以降の開催となっている。会議時は、行事や事故、苦情等の報告の他、法人の看護師を招いて心臓病や皮膚病等についてミニ勉強会を行ってられる。参加者からは、「勉強になった」等の感想があるようだ。又、病院受診等について参加者から質問があれば、事業所の方針をもとにして説明されている。年1回は、食事を兼ねて市内の飲食店で行われる。会議はこれまで、居間で開催していたが、利用者の混乱がみられたこともあり、現在は、事務室で行うようになっている。</p> | <p>管理者は、「雑談が多く、運営に活かせる話し合いが難しい。認知症に対しての偏見もないわけではない」と話しておられた。管理者は今後、会議のテーマや内容をさらに充実させていきたいと考えており、今年は、「エンディングノート」についての話し合いや作成に取組み、終末期を考える機会にしたいと話しておられた。会議を通じて、認知症の理解を深めたり、意見を出しやすい会議の工夫を重ねていかれてほしい。</p> |
| 5 | 4 | <p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p> | <p>(自己評価) 市の担当者が運営推進会議に毎回出席しており、事業所の実状や評価の取組みについて意見交換を行っている。他、認定更新の聴き取り調査に来る市の担当者に、利用者の暮らしを見てもらい連携を深めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時、市の担当者には、夜間の職員体制について報告して相談したり、福祉フェアの案内手段等についてアドバイスをもらったようなこともある。今年、地域包括支援センター主催の「波方圏地域ケア会議」が発足し、2月に第1回の集まりがあった。地域の介護職員や銀行、農協、郵便局等の方が参加して、高齢者の徘徊の事例やお金を預ける際の困りごと等について話し合われた。管理者は、会議で地域の高齢者のケアについて、情報交換や話し合いをしていきたいと考えておられる。</p> | |
| 6 | 5 | <p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p> | <p>(自己評価) 1回/年は母体組織の「身体拘束委員会」に出席し、身体拘束の定義を勉強している。又、玄関は施錠しておらず、利用者が出掛けるのを止めずさりげなく見守り、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支援している。</p> <p>(外部評価) 外に出たい方やご自宅に帰りたい方には、職員と一緒に散歩に出て季節の花を見たりしながら、気分転換できるよう支援されている。利用者に対して「ちょっと待ってね」等の言葉がけが見られた時には、職員同士で注意し合うようにされている。中庭は、利用者が自由に出入りでき、トマト等の生育を見ながらおしゃべりする等、ユニット同士の交流の場にもなっている。</p> | |

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|---|---|-------------------------------|
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている | (自己評価) 職員の勉強会のカリキュラムに取り上げ、無意識の行動や言葉かけが不適切なケアになっていないか学ぶ機会を設けている。日々の業務の中で無意識のうちに「ちょっと待って」「危ないから座っ」と行動を制止する事がある為、職員間で注意しあう様に努めている。 | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | (自己評価) 現在活用している方がおらず、相談に来られた方で必要とされた方には管理者が対応する。昨年度は学ぶ機会を設けることができおらず、全ての職員が必要な時に支援できる体制が万全とはいえない。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | (自己評価) 介護報酬の改定や利用料を増加する場合は、家族会での相談や個別の相談に応じている。契約内容を理解されていない様な状況がある時は、事業所の方針を含め家族と相談し納得を得られるように努めている。 | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | (自己評価) 年3回の家族会以外に、事業所の広報誌で職員の異動を知らせたり、担当職員が家族宛に日常の様子を写真に撮り、手紙を書き送付している。又、面会の時には家族と話す時間を設け、近状や本人からの要望を伝えるようにして、何でも言ってもらえる様な雰囲気作りに留意している。家族との会話の中から要望を汲み取る様に努めている。 (外部評価) ご家族来訪時には、職員と話す時間を必ず持つようにして、利用者の日頃の様子を報告し、ご家族の希望等を聞くようにされている。ご家族から、「この前来た時もこの服やったね」「目やにが付いとった」という声があったことから、利用者の身だしなみに気を付けることを職員で申し合わせ、古い衣類の点検をされた。事業所の便りは、担当職員の手紙とともに郵送、又は手渡ししており、毎月楽しみにしているご家族もある。家族会では、福祉フェアのフリーマーケットの出品の願いをしたり、緊急連絡先の確認等、事業所であらかじめ議題を提供して話し合えるよう取り組まれている。時には、利用者と一緒に芋たきをつくって食べるようなこともある。 | |

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|--------------------------|------|---|--|--|
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | (自己評価) 月に1回あるユニット会で職員の意見をまとめ、リーダー会でユニットリーダーと管理者が法人の代表者に報告している。昨年4月よりユニット毎に夜勤職員を1名配置する。車椅子のまま測定できる体重計の設置、ホーム周辺の雑草対策等、職員の意見を反映させている。 | 管理者は、今後、ケアのさらなる質向上に取り組んでいきたいと考えておられる。たとえば、整容等についても職員が行ってしまうのではなく、利用者が行えるようなかわり等にも工夫していきたいと話しておられた。職員個々のさらなるスキルアップからケアの質向上を目指していかれてほしい。 |
| | | | (外部評価) これまで利用者の急変や転倒等が心配で、夜勤勤務を敬遠する職員もあったが、ユニットごと夜勤者1名ずつ配置することに勤務体制を改善され、利用者の転倒も減り、職員も夜勤への負担が軽減されたようだ。管理者は、職員と面談して話し合いながら育成計画表を作っており、職員の目標等への取り組みを人事考課シートで評価したり、研修の希望を聞き取る等されている。又、全職員が外部の産業カウンセラーと年1回、話をする等、個々のストレス軽減に向けた仕組みもある。こうした法人全体の取り組みは、厚生労働省の「働きやすい、働きがいのある職場づくり」の事例集に掲載され、当事業所でも職員のモチベーションアップにつながったようだ。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | (自己評価) 代表者は職員の疲労やストレスに気を配り、産業カウンセラーを招きストレスケアマネジメントを全職員に行っている。又、行事・勉強会の時の時間外手当の支給や、小学生の子供を持つ職員への就業時間への配慮等、働きやすい職場環境作りに力を入れている。 | |
| | | | (外部評価) | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | (自己評価) 職員勉強会は、月毎にカリキュラムを組み実施しており、職員は月毎に復命書を管理者に提出している。外部研修は職員の希望を聞きながら参加できるようにしている。又、代表者は人材育成に力を入れ、外部から講師を招き研修を開催している。 | |
| | | | (外部評価) | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | (自己評価) 今年度より2ヶ月に1回市内のグループホームの交流会を開催している。6月は勉強会の後、同業者による困難事例のアンケートを基にグループワークをする予定である。管理者は交流を通じ、更なるサービスの質向上に努めたいと考えている。 | |
| | | | (外部評価) | |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | (自己評価) 必ず事前面談をして、生活状況を把握し本人の意向をお聞きしており、希望される方には来訪していただき、実際に日常の様子を見ていただいている。又、短期利用を経て入居された方もおり、利用者や家族の思いを受け止め、安心して頂ける様な関係作りに努めている。 | |
| | | | (外部評価) | |

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|--|-------------------------------|
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | (自己評価) 事前面談であらかじめ家族の困っていること・不安な事・要望をお聞きしている。利用開始からは、面会時に話しを聞く時間を設け、家族の求めていることを理解し、どのように対応していくかを話し合うようにしている。 | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | (自己評価) 早急な対応が必要な面談者には、可能な限り柔軟な対応が行えるように関連施設や医療機関などと連携をとっており、必要に応じて調整している。 | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | (自己評価) 職員は利用者の得意とする事を知り、その力で活躍できる場面を作る工夫をしており、「ありがとう」「助かりました」と感謝の気持ちを伝えている。又、利用者からは「出来る事は手伝うよ」と言ってくれる様な共に支えあえる関係作りに留意している。 | |
| 19 | | ○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | (自己評価) 「絆を大切にしよう」の行動指針の下、家族を巻き込んだ生活支援を目標にしている。手紙・電話・面会時に日頃の状態を報告するとともに、本人の意向をお伝えし、家族と共に支えていく関係を築いている。 | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | (自己評価) ご家族とお墓参りや法事・外食される方や、ご自宅に戻って服を持ってきたり、お仏壇を拜んで帰る方もいる。又、行事としてドライブに出掛ける時は、利用者の自宅周辺や馴染みの場所を経由する等、関係継続に努めている。 (外部評価) 利用者から「電話してほしい」と希望があれば、県外に住む娘さんに電話をかけて取り次いだり、「服を取りに帰りたい」と希望があれば、職員と一緒にご自宅に戻って、洋服を選び支援されている。ご家族や知人の訪問時には、どこで過ごすか利用者ご本人に希望をお聞きして、お茶を出す等してゆっくり過ごせるよう気配りをされている。 | |

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------------------------------|------|---|---|--|
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | (自己評価) 利用者同士の関係性を把握し、席の配置や作業の分担を行っている。世話好きの人にうまく力を発揮してもらい、みんなで楽しく過ごす時間が増えるように職員が調整役となり、孤立した利用者を作らないようにしている。 | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | (自己評価) サービスが終了しても、これまでの暮らしで知り得た本人の状況や生活習慣や支援のポイント等を次に生活する場の関係者に情報提供している。又、行事に招待する事もある。 | |
| .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | (自己評価) 利用者同士の日常会話や日々の行動や言動を、利用者の言葉のまま介護記録に残し、利用者個々の思いや意向の把握に取り組んでいる。 (外部評価) 入居時に「〇〇らしきシート」をご家族に作成してもらい、利用者の生い立ちや職歴の他、認知症と気づいた時の様子等についても把握されている。毎年、排泄や睡眠、栄養の状況等を記入する「入居者情報」を作成し直しており、医師に見てもらおうこともある。アセスメント表は事業所独自の様式を用いており、生活、環境、身体、関係性の4項目についてカンファレンス時に話し合い更新されている。「生活記録」には、利用者日々の様子や会話の内容をそのまま書き、他職員も客観的に利用者への対応を考えることができるようになっている。 | 管理者は、アセスメントの書類や記録等について、職員の業務の負担が大きいと感じており、今後点検、見直しをしていきたいと考えておられる。事業所は、ケアの質向上を目指しておられ、アセスメント様式や記録物については、利用者一人ひとりのその人らしさを大切にした支援に取り組めるよう、点検したり工夫されてほしい。 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | (自己評価) 契約時、家族に「〇〇様らしきノート」に本人のこれまでの暮らしぶりを書き込んでもらい情報収集している他、本人との会話や家族の面会時に聞く等、把握に努めている。 | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | (自己評価) 1人1人の生活習慣や体調の変化を把握している。「出来る事を探そう」という行動指針の下、本人の出来る事を知り、成功例を積み重ねられるよう、介護計画に反映している。 | |

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|--|-------------------------------|
| 26 | 10 | <p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p> | <p>(自己評価) 介護計画作成前に、利用者の担当職員が、本人や家族の思いや要望を聞き、利用者の日々の様子と毎月のモニタリングを踏まえ介護計画を見直している。見直しの期間を6ヶ月から3ヶ月に前年度より変更し、現状に即した介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価) 介護計画は、担当職員が1ヶ月ごとにモニタリングして、ケアマネジャーが作成するようになっている。事業所の理念に沿って「その人らしく」暮らせるよう、利用者に取り組みながら本人がやりたいこと、好きなことを中心に立案されている。管理者は、「利用者一人ひとりが楽しいと思ってもらえるような計画にしたい」と話しておられた。</p> | |
| 27 | | <p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p> | <p>(自己評価) 主に言動を記録に残し、状況や背景が分かりやすいよう書き方に工夫している。体調面や精神面の変化が著しい時は、センター方式を活用しており個別記録を下に、介護計画の見直しや評価を行っている。</p> | |
| 28 | | <p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p> | <p>(自己評価) 本人・家族の状況に応じて、通院や入・退院時の付き添い・送迎・又、入院中の洗濯物等、必要な支援は柔軟に対応している。</p> | |
| 29 | | <p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p> | <p>(自己評価) 地域のスーパー・デイサービス・保育所等、地域資源を活用し、本人の楽しみを支援している他、本人の希望により、訪問理容のサービスを利用している。</p> | |

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|---|-------------------------------|
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | (自己評価) 利用者全員が年1回は健康診断を受けている。他、週に1回は協力医療機関の主治医に文章で状況を報告し、月に2回は往診がある。又、専門医を受診する場合は、家族と日程を調整して同行してもらっている。他、急変時には、救急車を呼ぶ等対応している。 | |
| | | | (外部評価) 現在、すべての利用者が協力医で診てもらっており、受診前には、日頃の利用者の様子を主治医にファックスで報告して、「薬だけ」、「診療が必要」等の判断をしてもらっている。昨年8月に誤薬があったことから、職員で話し合い、服薬の際には、「〇〇さん、食後、〇〇の薬です」と言って利用者と一緒に確認して、正しく服薬を支援できるように仕組みを作られた。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | (自己評価) 職場内に看護職員を2名配置している。介護職員は利用者や些細な変化を見逃さないよう早期発見に努め、看護職に相談し、主治医に報告し、適切な医療につなげている。 | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | (自己評価) 入院時には、本人の生活支援の情報を病院に提出している。又、職員は面会に行き、病院関係者や家族から回復状況を聞き、情報を交換しながら早期退院に向け連携をとっている。 | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | (自己評価) 本人の強い希望により看取りを行った。家族・主治医・職員が連携をとり、随時本人の意志を確認し、最期を迎えられた。昨年より1ユニットに1名の夜勤職員を配置し、看取り支援の体制は強化された。 | |
| | | | (外部評価) 一昨年前、ご本人、家族の希望により主治医の協力を得ながら看取りを支援した事例がある。支援に不安を感じている職員もあったが、管理者は、「できることをしていこう」と話しながら支援をすすめていかれた。息子さんや友人に会いに来てもらえるよう出向いてお願いしたり、入浴がお好きだったため、寝ている状態でお風呂に入れるように支援された。職員は利用者が亡くなるまでの経過をみて、ケアの在り方を考えることにつながり、「感謝の気持ちでいっぱいになった」と話しておられた。家族会で看取りを議題にした際には、ご家族から、「できることはします」との声があった。遠慮するご家族もあることを踏まえ、管理者は、「利用者の希望とご家族の協力があれば、これからも看取りを支援する」ことを説明された。今年度、事業所ではターミナルに関する外部研修に参加する予定がある。 | |

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|--------------------------------|------|--|---|-------------------------------|
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | (自己評価) 市が開催する消防署による応急手当講習会を受講し、受講した職員による施設内研修を行う事で、全職員が周知している。 | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | (自己評価) 年2回避難訓練を実施している。1回は自動通報装置に登録している近隣住民の参加・協力を得ながら実施している。他、設備点検や消防署の協力を得て、水消火器による消火訓練、訓練後の意見交換会を行っている。非常用食料・備品は3日分を準備している。 (外部評価) 前回の避難訓練は、利用者も参加して夜間の火災想定で行われた。地域の方達にも参加してもらい、夜勤職員が指示して避難場所まで車いすを押していただいた。近隣の方や地域の消防団員の方からは、「非常口を出ると階段になっているので、スロープにした方がいいのではないか」「毛布を担架代わりにして利用者を運んでどうか」等のアドバイスをいただいた。 | |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | (自己評価) 法人の理念の一文「利用者の皆様を第一に考え」の下、職員は常に利用者の立場に立って、まず本人の気持ちを大切に考えて、さりげない援助や言葉かけをする様に努めている。 (外部評価) 職員は、笑顔で穏やかに利用者へ接することを心がけておられる。調査訪問時、利用者がお茶をこぼした場面では、職員はタオルを持ってきて、さりげなく拭いておられた。座席のことで利用者同士のトラブルがあったような場合は、席はみなさんのものであることを説明して理解を得るように努めておられる。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | (自己評価) 日常の関わりの中で、本人の思いや希望を聞きだし支援を行なっている。意思の表出の出来にくい方は、言葉尻や表情から思いを読み取る様にしている。又、生活の中に自己決定できる場面を作っている。 | |

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|--|-------------------------------|
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | (自己評価) 基本的な一日の流れは決めているが、一人ひとりのその日の体調を配慮しながら、又は、その人の生活習慣に合わせたペースで暮らせるよう、出来るだけ個性のある支援に努めている。 | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | (自己評価) 毎朝洗面の後、鏡を見ながら髪をとかし化粧水を塗る等、今までの生活習慣でしていた事を継続出来る様にしている。毎日着る洋服・出掛ける時の外出着も本人が選び、自己決定出来ない方は職員が選んでいる。又、食べこぼしが多い方には、食事前エプロンは使わず、専用タオルを使用している。 | |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | (自己評価) 職員は利用者との日常の会話の中で、食事の好みや希望を聞き、栄養士が1週間の献立を立てている。下ごしらえ、盛り付け、片付け等、出来る事を役割分担して行い、ラッキョウや奈良漬を利用者に教えてもらいながら漬けることもある。又、職員は利用者と同じテーブルで同じ食事を摂り、会話しながら楽しい雰囲気の中で食事が出来るように努めている。 | |
| | | | (外部評価) 食事は、「地域のもの、旬のものを取り入れる」ことにこだわり、事業所で作っておられる。1つのユニットで全員分をまとめて作り、もう一つのユニットへ届けるようになっていく。利用者は野菜を切ったり、後片付け等をしており、調査訪問時は、利用者が慣れた手つきで人参を千切りにされていた。昼食時には、職員も一緒にお話しながら同じものを食べており、食卓に上ったソラマメが話題になっていた。糖尿病等の持病がある方には、状態に応じて、栄養士の資格を持つ職員がカロリー計算をする場合もある。利用者の誕生日にはお好きなちらし寿司を作ったり、握りずしをお店に注文する等されている。又、ウナギやかぼちゃを使った季節の料理や鯛めし等の郷土料理も、積極的に取り入れておられる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | (自己評価) 職員は一人ひとりの水分量・食事を把握している。個別に主治医より高カロリー補食品を出してもらっている方もいるが、それだけに頼らず、本人の嗜好品や食べやすい物を出し、一日の摂取量が把握しやすい様にセンター方式のシートを活用している。体調により飲水量を調整する時もある。又、むせや飲み込みが悪い利用者についても、形態や食事の内容を替える等工夫している。 | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | (自己評価) 利用者の状態に合わせて、出来る方は声掛けし、出来ない方には毎食後できない部分のサポートをしており、1回/週は入歯洗浄剤を使用している。 | |

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|---|---|-------------------------------|
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | (自己評価) 排泄の失敗をしてしまう方の排泄のタイミングを把握しており、さりげなくトイレ誘導し、トイレでの排泄に努めている。又、個々にあわせて使用する紙パンツやパットを検討している。 | |
| | | | (外部評価) 便失禁でご本人が情けない思いをしないですむように、職員が連携して様子を観察し、タイミングをみながらトイレ誘導することで、状態が改善したような事例がある。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | (自己評価) 起床時の冷水や牛乳・ヨーグルトの提供をして、自然な排便に繋がるよう工夫はしているが、便秘薬を服用している方が多い為、服薬は最低限に出来る様、主治医と相談しながら調整を行っている。 | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | (自己評価) 入浴時間帯は概ね午前となっている。朝風呂を嫌う方は午後から入浴するようにしている。仲の良い方同士が一緒に入ったり、職員との会話を楽しみにしている方もいる。又、異性の介助に抵抗感がある方は、同性の介助を行っている。 | |
| | | | (外部評価) 入浴は概ね2日に1回となっている。入浴時に職員と1対1で話すことを楽しみにしている利用者もあり、職員は話をじっくり聞くようにされている。入浴を嫌がる利用者があり、ご家族と話し合っ、自宅で入浴できるよう支援したり、事業所での入浴時には、娘さんに付き添ってもらう等して支援を重ねることで、今では、1番に入浴されるようだ。入浴を渋っていても、散歩にお誘いして気分がよくなった頃にお誘いすると入浴につながるようなこともある。現在、車いすを使用する方は、職員が2人で支援されている。利用者の重度化を踏まえ、職員の負担軽減のため、職員から提案もあり、介助リフトを近々導入されることになっている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | (自己評価) 1人ひとりの生活リズムに合わせて、日中の活動に配慮している。その時々体調や表情や本人の希望を考慮し、休息をとっている。又、穏やかな気持ちで安心して眠れる様に夕方からの居場所や過ごし方にも配慮している。 | |

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|--|-------------------------------|
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | (自己評価) 処方箋をファイルにつけて、日常的に確認しており、処方の変更になったり、状態変化が見られる等医療的な記録は赤色で記入している。又、日々の服薬を確実なものにする為、服薬方法を個別に決めており、職員はそれを周知している。 | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | (自己評価) 日常生活の中で、1人ひとりの得意な力を発揮できる場面を作り、助けられた事への感謝の気持ちを言葉で伝える様になっている。 | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | (自己評価) 本人の希望により自宅に帰ったり、ドライブや買い物に出掛ける事もある。又、本人の希望を家族に伝え、家族の協力により行きたい場所に行く方もいる。年に1回は、日帰り旅行と称し国際ホテルに出かけ、家族と旅行気分を味わえる様企画している。 | |
| | | | (外部評価) 「アイスクリームが食べたい」「お寿司が食べたい」等、利用者の希望があった際には、個別に出かけられるよう支援されている。天気の良い日には、市民の森へ出かけ、花見がてらたこ焼きを食べて帰ることもある。毎日近所を散歩できるよう、支援しているケースもある。地域の祭りには、管理者が依頼して継獅子の保存会に来てもらい、戸外で継獅子を皆で楽しまれた。子どもが獅子の一番上に上がった時には歓声が上がり、涙を流して喜ぶ利用者もあったようだ。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | (自己評価) 少額のお金を持っている方もいるが、概ね事業所で管理している。買い物に行くときは自分でお金が払える様工夫している。他、管理が出来ない方にもお金はあるという安心感を感じられる様声掛けしている。 | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | (自己評価) 親戚や知人に年賀状を出す他、遠方の家族に電話をしたりかかってきたりもする。 | |

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|--|-------------------------------|
| 52 | 19 | <p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>(自己評価) 共用の空間には四季折々の花を飾り、壁には手縫いのタペストリーが飾ってある。ひな人形・五月人形・七夕を飾り、季節のしきたりを大切にしている。又、中庭には洗濯物を干したり、草花や野菜を育てたり散歩や日光浴をする方もおり、両ユニットの利用者の憩いの場になっている。</p> <p>(外部評価) 玄関、共用空間、居室等には色とりどりのあじさいが生けられていた。廊下の壁には、利用者が作ったフェルトのあじさいも飾られていた。トイレの表示や矢印を付けてトイレの方向を示し、位置がわかりやすいように工夫されていた。職員は、利用者に、「暑くないですか」とお聞きしながら、天井の扇風機を回したり、寒がりな方には、毛布を体にかけて保温できるよう支援する等、利用者一人ひとりが快適に過ごせるように気を配っておられた。又、利用者同士の関係性を大切にしながら、座る位置を考慮されている。</p> | |
| 53 | | <p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p> | <p>(自己評価) 職員は一人ひとりの関係性を把握しており、各々に心地よく過ごして頂ける様ソファや椅子の配置に配慮している。又、中庭や玄関先・駐車場等、戸外にもベンチや椅子を設置し、1人で過ごしたり気の合う利用者同士がくつろげるスペースがある。</p> | |
| 54 | 20 | <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>(自己評価) ご自分で創った手芸品や仏壇や位牌のほか、レコードプレーヤーを持って来られ、ご自分の好きなレコードをかけ歌を聴いている方もいる。又、家族との写真や日めくりカレンダー・家族からのプレゼントの品を飾る等それぞれの居心地の良い環境を工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室には、レコードや手編みの道具、野球選手の写真、季節の花等、利用者それぞれの好みの物や趣味の物が置かれていた。誕生会の写真やアルバムも見られた。仏壇のある居室では、お世話が難しくなった利用者に代わって、職員が毎日お水とごはんを供えておられる。立ち上がりが不安定な方の居室では、利用者とは相談しながら、衣類タンスを手が届きやすい場所に置く等、安全面を考慮して家具を配置しておられる。</p> | |
| 55 | | <p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p> | <p>(自己評価) 1人ひとりの身体機能や状況に合わせて、安全で自立した生活が送れるよう、気づきをヒヤリハットにあげ検討し、安全な環境整備に努めている。</p> | |